

学力向上支援チーム事業(案)

事業イメージ

誰一人取り残さない学力の向上

基礎学力
の定着

学 校



校長マネジメント



教員の授業力向上



子ども一人一人の
課題に応じた指導の充実



情報（教育デー
タ）を教職員で共
有・分析し、必要
な支援策を検討

学校に応じたきめ細やかな支援

支援チーム

- ・ 授業力向上に向けた指導助言
- ・ 課題のある児童生徒への個別支援
- ・ 各種データの分析や活用支援



ブロック担当指導主事

きめ細かく学校を支援
学校運営に必要な支援策を
コーディネート

連携

授業力向上への支援（小中学校及び義務教育学校全409校）

スクールアドバイザー



教員の授業力向上への支援
全小中学校を月2回程度訪問
指導技術に長けた元校長・元教員

学力に課題の見られる児童生徒への支援（重点支援90校）

学び
チーフコラボレーター
校長への支援
重点支援校90校に訪問

学び
コラボレーター
児童生徒への支援
重点支援校90校に配置

学び
サポーター
放課後学習による
児童生徒への支援

教員の負担軽減に向けた取組

1. これまでの主な取組

○専門スタッフ等の強化・充実

- ・学校現場の負担軽減と校長のマネジメントの確立（平成25年度～）
- ・部活動指導員の配置（平成30年度～）
- ・スクールサポートスタッフの配置（令和元年度～）
- ・大阪市版スクールロイヤー事業（令和元年度～）

○事務負担の軽減

- ・学校への調査・照会文書等の削減（平成29年度～）
- ・校園長印の削減（令和2年度～）

○学校園における取組

- ・夏季休業中等の学校閉庁日の設定（平成29年度～）
- ・小学校・中学校への音声応答装置の導入（平成30年度～）

○プランの策定

- ・教員の長時間勤務解消に向けた調査研究等業務委託（平成30年度）
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」の策定（令和元年度）

2. 教員の時間外勤務時間の状況

・これまでの取組により、教員の時間外勤務は概ね順調に減少傾向にある。

【月平均時間外勤務時間の推移】

	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	全校種
平成30年度	30:36	48:02	37:51	31:05	36:35
令和元年度	28:03	43:41	36:35	26:56	33:34
令和2年度	27:27	38:49	34:16	21:51	31:24

▲約5時間の減

【時間別時間外勤務時間の推移】（全校種平均）

	～30時間以下	～45時間以下	～60時間以下	～80時間以下	80時間超
平成30年度	6,037人 43.5%	3,600人 25.9%	2,127人 15.3%	1,322人 9.5%	796人 5.7%
令和元年度	6,756人 48.3%	3,667人 26.2%	1,909人 13.7%	1,142人 8.2%	509人 3.6%
令和2年度	7,220人 51.2%	3,698人 26.2%	1,973人 14.0%	941人 6.7%	269人 1.9%

80時間超の教員は
約1/3に減少

3. 今後の主な取組

○専門スタッフ等の強化・充実

・部活動指導員の配置【拡充】

令和3年度（予算）…中学校109校

325部活動

令和4年度（目標）…中学校127校

義務教育学校1校

384部活動《全校配置》

・スクールサポートスタッフの配置【継続】

令和3年度（予算）…小学校286校

中学校129校

《全校配置》

令和4年度（目標）…小学校281校

中学校127校

義務教育学校1校《全校配置》

○学校園における取組

・学校行事における創意工夫【継続】

令和3年度…コロナ禍において、重点化を図り実施方法を変更

令和4年度…実績を踏まえ、様々な実施方法の検討を継続

○プランの改訂

・「学校園における働き方改革推進プラン」の改訂【新規】

令和4年度…効果検証のうえ、令和5年度以降の取組や目標を設定したプランに改訂

最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実

令和4年度におけるICT教育アシスタントの配置について

R3年度は1人1台環境が全小中学校で整った初年度の取組の中で、機器操作方法や活用手法についてのスキルを一定習得したところであるが、R4年度は、危機管理対応下での学びの保障の重要性を鑑み、すでに各教員が習得したオンライン学習のノウハウを高め、効果的な学習活動を進めていくほか、日常的にアプリケーション等を活用することにより、ICTを活用した学習指導の充実を図っていくこととする。

◆ 支援内容

支援項目	具体的な支援内容
学習者用端末の活用	・協働学習支援ツールなどを活用した協働学習への支援 ・アプリケーションを活用した学習活動への支援 ・双方向オンライン学習への支援
教材作成	・プレゼンテーション資料やオンデマンド教材などの作成支援
教員研修	・実践事例を踏まえた校内研修の支援
その他機器操作全般	・動作環境確認及び機器トラブルの対応支援

◆ R4年度の配置（案）

- ・各校のICT活用レベルに応じ、月2回から月4回配置（R3年度：月1回から月2回配置）

授業づくり支援であるICT教育推進アドバイザーと連携し、ICTを活用した学習指導の充実を図る